

「北海道におけるICTを活用した観光情報等提供モデルの調査検討会」 第3回(最終)会合【議事要旨】

1 日 時 平成22年3月9日(火) 16:00～17:00

2 場 所 北海道総合通信局第1会議室

3 出席者

(1) 構成員(五十音順、敬称略)

赤松 勲(代理:武田 歩)、荒井 功(座長代理)、遠藤 好朗、
金子 敦(代理:奥本 賢二)、川人 正善、近藤 敦志、
玉置 俊治、濱田 康行(座長)、守山 泰史、柳屋 圭吾、
山本 孝司、渡辺 修

(2) 北海道総合通信局

大久保北海道総合通信局長、今田情報通信部長、今井電気通信事業課長

4 議事次第

(1) 開会

(2) 議事

ア 第2回会合の議事要旨の確認

イ 報告書(案)について

ウ その他

5 議事概要

【第1回会合議事要旨】

- 事務局から資料3-1「北海道におけるICTを活用した観光情報等提供モデルの調査検討会」第2回会合議事要旨を説明し、特段意見もなく確認された。

【報告書(案)】

- 事務局から資料3-2「北海道におけるICTを活用した観光情報等提供モデルの調査検討会」報告書(案)について、資料3-3「北海道におけるICTを活用した観光情報等提供モデルの調査検討会」報告書(案)(要旨)を用いて提案した。
- 3月2日(火)開催WG第6回会合での次の事項等の指摘を踏まえたものである旨、事務局から補足説明した。
 - ① 実証実験にて得られた結果について、観光の視点による記述が不足している。
 - ② 小口CMコンテンツについても北海道観光の観点での評価について記述すべき。
 - ③ 道の駅の活用、多言語対応についてアンケート結果に有用な意見が出されているので、それらを盛り込むこと。

○ 濱田座長からの意見。

報告書（案）と要旨版のデジタルサイネージの事例について、整合させるべきこととし、編集上の取扱いを座長と事務局に一任することで報告書案は了承された。

【その他】

○ 第3回会合議事要旨について、別途、取りまとめ各構成員に対してメールに照会・確認を得た後、ホームページに掲載する旨、事務局より説明した。

○ 合わせて、報告書は業者による印刷製本後、各構成員並びに関係機関等に配付する旨、事務局より説明した。

○ 3月17日（水）開催の「デジタルサイネージ利活用セミナー」の案内が、事務局からされた。

【荒井座長代理のコメント】

○ 札幌市としてデジタルサイネージの展示場所を提供し、実証実験に協力できた。画面、映像は非常に美しいものだった。特に縦型高精細映像はよかった。北海道の風景をPRする強力な映像の力というものを感じた。他方、タッチ式デジタルサイネージを利用者は即座に理解して利用するというものではなかった。この取組を通じて認知度が向上することを期待する。携帯端末を利用したクーポン発券も機能としてはよかったと考える。小口広告の件数が多くなったときの検索方法などは今後十分検討すべき課題と考える。

【大久保局長挨拶】

○ 調査検討会報告書の取りまとめに当たり、各構成員の皆様のご尽力に感謝する。観光産業とデジタルサイネージとは密接な繋がりがあると感じた。簡便型を目指したが、小口広告の写真や文書の作成の点などで問題もあることが判明したが、使い方次第だということを感じた。いただいたご意見の中には情報のリアルタイム送信、画像の美しさに対する評価もあり、デジタルサイネージが美しさをもっと表現できる点をより強調し、これらを追求して個人や中小企業による観光産業の発展が期待をできることを確信した。今後は検討会をただ終えるのではなくデジタルサイネージの普及発展に、総務省としても努力してまいりたい。

【座長挨拶】

○ コープさっぽろ理事や北大生協の理事長の経験から、小売りの観点から経済を見ることになっているが、その経験から現在の経済は最悪とも言える状況で小売業はデパートの状況を見ても悪く、売り上げも減少、コスト削減も限界の状態である。観光産業も多くの小売り外食産業等を要素としており、同様の状況であり報告書冒頭にも記述している。今後、如何にお客を維持確保していくか、にあたっては、アピールをどうしていくかについて迷っている状況である。本

検討会を通じてデジタルサイネージに関わるうち、その利活用がこれらの問題解決に資する可能性を有していることに気づいた。今回の調査検討会では実証実験という行動を伴う検討を行えた。これは初めて経験であり、世間に問うことができるものと自信をもった。日本で初めての試みを北海道で行うことを常に意識してきた、今回の調査検討は、日本初発・北海道初発と思う。今後は普及発展に向けた働きかけが重要となっていく、関係の皆様のご尽力を期待する。

以上